

村本家文書目録

2021年1月

名古屋大学大学院経済学研究科附属
国際経済政策研究センター情報資料室

目次

村本家文書目録解題（中西 聡）	1
村本家文書目録（小堀 聡）	4
【A】大福帳	4
【B】当座帳	4
【C】書出帳	5
【D】書抜帳	7
【E】雑記	9
【F】各種御通	11
【G】当用日記	11
【H】地券	12
【I】その他	12

1 はじめに

現愛知県一宮市北方町曾根に所在している村本家は、近世期からその場所で農家を営んでいたと考えられ、近代に入り、1870年代から呉服太物商を開業して1900年代まで商売を続けた家である。同家は、商業廃業後も農業を継続し、築120年以上と考えられる母屋が残されていた。ただし、その老朽化が激しく、2010（平成22）年に解体されることとなったため、同家に遺された史料の寄贈先について、当時、名古屋大学大学院経済学研究科に勤務していた中西聡に相談があり、中西を始め、名古屋大学関係者（溝口常俊、西澤泰彦、吉川卓治、堀田典裕、二谷智子、服部亜由未）が、村本家を訪ね、建物調査・聞き取り調査・古文書調査を行った。その結果、同家文書が名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターに寄贈されることとなった。

寄贈された文書は帳簿が中心であり、表題に応じて順番に記号を付した。すなわち、大福帳14冊をA、当座帳18冊をB、書出帳72冊をC、書抜帳109冊をD、雑記45点をE、各種御通21冊をF、当用日記23冊をG、地券119枚をH、その他47点をIとした。合計468点からなる史料群である。

また、母屋は(1)、木造平屋である。玄関を基準に東側三分の一を土間、西側三分の二を畳敷の部屋とし、さらに畳敷きの部屋は田の字型に四室配され、その南西北の三方に廊下を廻すというこの地方特有の農家の平面である。このうち、東側の土間の一部は本来、台所などの水回りとして造られたと考えられ、玄関に面した畳敷の部屋を店部分に使用していたと推定される。おそらく呉服太物商を開業した際に、母屋を建築したと考えられるが、屋根裏に見える部材には、側面に垂木の根元を架けたとみられる梁や「手斧（ちょうな）仕上」の束や梁があることから、そもそもこの地にあった建物の部材を転用して建てられたと考えられる。また、この地方は、濃尾地震（1891年）では多くの建物が被災した地域だが、この建物の屋根架構（木屋組）や軸組には金物補強がまったく見当たらないことから、濃尾地震以前の建てられたと推察される。

2 村本家の歴史

村本家現当主村本和生氏からの聞き取りによると、村本家初代は1769（明和6）年に亡くなった幸右衛門に遡れる。2代目斧右衛門は1789（寛政元）年に、3代目祐八は1813（分化10）年に亡くなった。4代目勇蔵から系譜がはっきりしており、勇蔵には、久七・久助・乙治郎など複数の息子がいたが、長男の久七に跡を継ぐ子がなく、次男久助の次男利七が1871（明治4）年に久七の養嗣子となり、村本本家を継いだ。利七は1849（嘉永2）年生まれのため、本家を22歳で継いだことになる。次男久助は分家し、久助家は久助の長男新三郎が継いだ。村本本家利七が呉服太物商を始めたので、村本家文書の明治期の多くは村

本利七家（店）のものである。なお、分家新三郎も綿屋として本家と同じ曾根で商売を行っていたと考えられ、綿屋新三郎家の 1874～86 年の帳簿も村本家文書に含まれている。

史料の残り具合から考えて 1900 年代後半には、利七は呉服太物商売を止めたと考えられ、利七の息子であった賢治は、役場や織物組合へ勤務した。賢治は、1877 年生まれて 1928（昭和 3）年に亡くなっており、賢治の代の史料としては、1916（大正 5）・21 年の「当座帳」、1922 年の「収支覚帳」、1919・20 年の「日家栄」が残されている。そして、賢治の長男の利廣（1903 年生まれ）が、1925 年以降第二次世界大戦期まで「当用日記」を残しており、それ以降の村本家の歴史が詳細に判明する。それによると(2)、利廣は 1925 年当時彦根高等商業学校（滋賀大学経済学部の前身）の学生で、彦根で下宿生活を送っており、26 年に名古屋高等商業学校（名古屋大学経済学部の前身）に入学して 27 年に名古屋市立第三商業学校（名古屋市立桜台高等学校の前身）の教師になった。その後、商業学校の教師生活を送るが、この間に 1936 年に「たへ」と結婚し、現当主の和生氏が 39 年に生まれている。

なお、利廣は戦後、新制高校の教員となり、県立津島商工高等学校（津島北高等学校の前身）を最後に退職した。利廣は 1994（平成 6）年に亡くなったが、「たへ」はその後も母屋で暮らし続け、2008 年に「たへ」が亡くなったことが、村本家母屋の解体と文書寄贈の契機となった。

3 村本家の呉服太物商経営

「大福帳」から村本家の呉服太物商経営の概略をみると(3)、1885（明治 18）年の主要販売先は、玉ノ井（現一宮市・旧木曾川町）・光明寺（現一宮市）など地元葉栗郡であり、主な販売商品は、縮類が中心で色は紺が多かった。そして 1903 年の主要販売先も、光明寺や木曾川など葉栗郡内が中心でありあまり変化はなかったものの、1885 年時点と異なり、キャラコ・唐金巾・モスなど近代以降の洋式技術が活かされた織物が販売されるようになり、色も紅木綿・青木綿・うこん（染め）など多様になった。このように農村の呉服太物商が扱う商品でも、20 世紀に入ると多様化がかなり進んだことが読み取れる。それは、葉栗郡が尾西地方の織物産地であった中島郡に隣接しており、中島郡で多様な織物が生産されるようになったことを反映していたと思われる。なお、村本家の 1912（大正元）年時点の所得等級は 24 等とされ(4)、北方村内では村本家は有力な商家兼農家であったと言えよう。

4 おわりに

村本家文書の特徴は、町場や都市ではなく、農村部に所在した呉服太物商の経営状況が判明することと、「当用日記」により昭和戦前期の恐慌や戦争の激動の時代の生活が詳しく読み取れることである。同家文書を活用することで、尾西の織物がどのように尾西農村部に受容されていたかが判明するとともに、尾西地域の生活史研究も進めることができよう。農村部の呉服太物商の史料群は、筆者の管見の限り、他の地域でもあまり残されてお

らず、昭和戦前期の教師の「日記」も希少であり、教育史研究の視点からも興味深い。その意味で村本家文書は大変貴重な史料群と考えられる。

注

- (1) 以下、建物調査の概要は、西澤泰彦氏（名古屋大学）からのご教示による。
- (2) 以下、利廣氏の経歴は、吉川卓治氏（名古屋大学）からのご教示による。
- (3) 愛知県史編さん委員会編『愛知県史』通史編6 近代1、愛知県、2017年、403-404頁を参照。
- (4) 渋谷隆一編『都道府県別資産家地主総覧』愛知編2、日本図書センター、1997年、120頁を参照。なお、1912年時点の所得24等級は所得金額500円程度とされている。

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
A	1		大福帳	乙酉明治十八年一月吉日	1885	村本利七	薄い紙で毎月末に「インデックス」状のものを貼り付けてある。
A	2		大福帳	明治二十四年卯一月吉日	1891	村本利七	ところどころ薄い紙で「インデックス」のようなものを貼り付けてある。
A	3		大福帳	明治廿六年□月吉日	1893	村本利七	ところどころに小さな紙片が貼ってある。月と合計金額か。
A	4		大福帳	(明治)廿六年度分	1893	村本利七	2頁目に布のパッチワーク状の装飾あり(生地サンプルか)。途中に「御池平助様廿六年十月 村本利七」と書かれた証書のような紙が挟まっている。表紙カスレのため、年代は表紙裏の記載から。
A	5		大福帳	明治廿七年午二月吉日	1894	村本利七	
A	6		大福帳	明治廿八年二月吉日	1895	葉栗郡黒田町大字曾根 村本利七	後方の頁に金額のようなものを羅列したメモ書きが挟まっている。ところどころに紙片が貼られている。月と合計金額か。
A	7		大福帳	明治三十年酉一月吉日	1897	村本利七	左側面に「三十二年當座」、右側面に「家日房栄」の文字。表紙裏に紙治商店の福神のイラスト付きのシールが貼られている。1枚目の頁にメモ書きが挟まっている。本文中「村本」の印鑑がたくさん押されている。毎月末に赤い字で当月の合計金額のようなものが記載されている。
A	8		大福帳	明治三十年酉一月吉日	1897	村本利七	ほぼ中ほどの袋状になった頁にメモ書きが挟まっている。本文中「村本」などの印鑑が多数押されている。
A	9		大福帳	明治三十三年子一月吉日	1900	村本利七	本文中に「品戻」「請取」の印鑑多数。
A	10		大福帳	明治三十五年寅一月吉日	1902	村本利七	本文中に「品戻」「請取」の印鑑多数。
A	11		大福帳	明治三十六年卯一月吉日	1903	村本利七	全頁に赤で罫線。A-8と同じ印鑑が押されている箇所がある。途中から合計金額らしきものがアラビア数字になっている。
A	12		大福帳	明治三十七年辰一月吉日	1904	村本利七	全頁に赤で罫線が引かれている。表紙の裏に紙治商店の福神のイラスト付きの大福帳のシールが貼られている。
A	13		番財大福帳	(明治26~33年)	1893 1900	村本利七	三十三年二月分ころから文字不明の豆印が多数押されている。
A	14		大福帳	不明	9999	村本利七	本文中の数か所に「明治廿三年」とあり。
B	1		当座帳	明治廿一年戌子第一月	1888	村本利七	右側面に「曾根村当座□□□入」左側側面に「村本利七」下側面に「□□当座預□□□」の文字。豆印多数。
B	2		当座帳	明治(廿)一年戌子□一月	1888	村本利七	文字不明の豆印多数。
B	3		当座帳	明治廿二年戌子□一月	1889	村本利七	
B	4		当座帳	(明治24年)卯二月吉日	1891	村本利七	裏表紙の裏にパッチワーク状の装飾あり(生地サンプルか)。
B	5		当座帳	(明治24年)	1891	村本店山田弥右衛門	
B	6		当座帳	明治廿五年辰一月吉日	1892	村本利七	2枚目・3枚目に布のパッチワーク状の装飾あり(生地サンプルか)。
B	7		当座帳	明治廿五年辰九月吉日	1892		
B	8		当座帳	(明治25年)辰十月吉日	1892	村本店利七	後方に住宅地図のような記載あり。
B	9		当座帳	明治廿七年午五月吉日	1894	村本店山田弥右衛門	豆印多数。「村本」の印鑑あり。
B	10		当座帳	明治廿八年未一月吉日	1895	村本店山田弥右衛門	一頁目に右のような紙片が貼られ、袋状になった部分に予備と思われる同紙片が数枚入っている。「村本」の印鑑あり。
B	11		当座帳	明治廿八年未九月吉日	1895	村本店山田弥右衛門	「村本」の印鑑あり。
B	12		当座帳	明治廿八年未十二月吉日	1895	曾根 呉服屋村本利七	
B	13		当座帳	明治廿九年申一月吉日	1896	村本店山田弥右衛門	表紙裏に紙治商店の福神のイラスト付きの大福帳のシールが貼られている。一頁目に鉄道の時刻と思われる記載あり。「村本」の印鑑あり。

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
B	14		当座帳	明治廿九年申口吉日	1896	村本利七	裏表紙に住所らしきものの記載あり。表紙裏に紙治商店の福神のイラスト付きの大福帳のシールが貼られている。各頁の下部分に縦書きに垂直に交わる角度で金額らしき数字が記載されている。最終頁に紙片が多数貼られている。
B	15		当座帳	明治三十年酉一月	1897	村本利七	「村本」「代済」「請取」「改」などの印鑑あり。「村本利七殿」あての金銭借用書らしき紙片が挟んである。
B	16		当座帳	明治三十三年子一月吉日	1900	村本利七	表紙裏に紙治商店の福神のイラスト付きの大福帳のシールが貼られている。「代済」「品戻」、文字不明の豆印あり。一頁目と裏表紙の裏に「尾州葉栗郡黒田町曾根呉服商 村本利七」と書かれた印鑑あり。家紋のようなイラストあり。
B	17		当座帳	大正五年后期以降	1916	村本賢治	一頁目に印紙と「印帳払込期限従明治二十年九月迄同二十一年八月 満壱ヶ年 明治二十年九月 村本利七(村本の印鑑も)」と記載され、そのあと5mmほどの厚さの分がまとめて封がなされている。「村本賢治」の印鑑あり。家賃収入に関する記
B	18		当座帳	大正十年自二月八日至十一年一月三十日	1921 1922	村本賢治	表紙に「地廻」の文字。一頁目に紙片が多数貼られている。
C	1		書出帳	明治七年戌十二月吉日	1874	綿新	「合」の印鑑あり。
C	2		書出し帳	明治八年	1875		「代済」の印鑑あり。
C	3		書出シ記	明治十三年辰十二月	1880		表紙に「北黒」とあり。「原豊」「合」の印鑑あり。
C	4		書出シ記	明治十三年辰十二月	1880		表紙に「南黒」とあり。「原豊」「合」の印鑑あり。
C	5		書出シ記	明治十七年申十二月	1884	村本利七	表紙に「黒田中」とあり。
C	6		書出シ記	明治十七年申極月	1884		
C	7		書出帳	明治十九年極月	1886		表紙に「南筋」とあり。
C	8		書出し帳	明治廿一年戌八月	1888		表紙に「当所」とあり。
C	9		書出帳	明治廿一年戌八月	1888		表紙に「北筋」とあり。
C	10		書出帳	(明治)廿一年十二月分	1888		表紙に「北筋」とあり。
C	11		書出し帳	明治廿二年	1889	村本	表紙に「南筋」とあり。
C	12		書出し帳	明治廿二年八月	1889	村本	表紙に「当所」とあり。
C	13		書出シ帳	明治廿三年旧十二月	1890	葉栗郡字曾根 村本利七	表紙に「南筋」とあり。
C	14		書出帳	明治廿三年旧十二月	1890	葉栗郡字曾根 村本利七	表紙に「北筋」とあり。末尾にひっ算で計算したようなものあり。
C	15		書出帳	(明治)廿三年旧十二月分	1890	葉栗郡字曾根 村本利七	表紙に「当村」とあり。
C	16		書出シ帳	(明治)廿五年十二月分	1892	村本	表紙に「黒田筋」とあり。
C	17		書出帳	(明治)廿五年十二月分	1892		表紙に「北方筋」とあり。
C	18		書出シ帳	明治(廿五年十二月分)	1892	村本	表紙に「玉ノ井筋」とあり。
C	19		書出シ帳	(明治)廿五年十二月分	1892		表紙に「光明寺筋」とあり。
C	20		書出シ帳	(明治)廿五年旧十二月分	1892		表紙に「当村」とあり。
C	21		書出シ帳	(明治)廿六年旧十二月分	1893	村本店	表紙に「大の筋」とあり。
C	22		書出シ帳	(明治)廿六年旧十二月分	1893	村本店	表紙に「光明寺筋」とあり。
C	23		書出シ帳	(明治)廿六年旧十二月分	1893	村本店	表紙に「黒田筋」とあり。
C	24		書出シ帳	明治廿六年旧十二月分	1893	村本店	表紙に「北方筋」とあり。
C	25		書出帳	明治廿七年午八月	1894	邨本利七	表紙に「光明寺筋」とあり。
C	26		書出帳	明治廿七年午八月	1894	字曾根 邨本店	表紙に「黒田筋」とあり。
C	27		書出帳	(明治)廿七年午八月	1894	邨本利七	表紙に「当村」とあり。

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
C	28		書出帳	明治廿七年午八月	1894	曾根 邨本利七	表紙に「北方筋」とあり。
C	29		書出帳	(明治)廿八年未八月	1895	村本利七	表紙に「黒田筋」とあり。
C	30		書出帳	(明治)廿八年未八月	1895	村本利七	表紙に「当村分」とあり。
C	31		書出帳	(明治)廿八年一月廿五日	1895		表紙に「当村分」とあり。
C	32		書出帳	(明治)廿八年一月廿五日	1895		表紙に「北方筋」とあり。
C	33		書出帳	(明治)廿八年一月廿五日	1895		表紙に「玉ノ井筋」とあり。
C	34		書出帳	(明治)廿八年未八月	1895	ソ子 村本利七	表紙に「光明寺筋」とあり。
C	35		書出帳	(明治)廿八年一月廿五日	1895		表紙に「光明寺筋」とあり。
C	36		書出帳	(明治)廿八年一月廿五日	1895		表紙に「大の筋」とあり。
C	37		書出帳	(明治)廿八年未八月	1895	邨本利七	表紙に「大の筋」とあり。
C	38		書出帳	(明治)廿八年一月廿五日	1895		表紙に「南筋」とあり。「改」の印鑑。
C	39		書出帳	(明治)廿八年一月廿五日	1895		表紙に「北方筋」とあり。
C	40		書出帳	(明治)廿八年未八月	1895	村本利七	表紙に「玉ノ井筋」とあり。
C	41		書出帳	(明治)廿八年未八月	1895	村本	表紙に「北方筋」とあり。
C	42		書出帳	(明治)廿九年八月	1896	村本賢治	表紙に「八幡筋」とあり。
C	43		書出帳	(明治)廿九年二月	1896	村本利七	表紙に「梶塚筋」とあり。
C	44		書出帳	(明治)廿九年二月	1896	村本利七	表紙に「光明寺筋」とあり。
C	45		書出帳	(明治)廿九年二月	1896	村本利七	表紙に「川嶋筋」とあり。
C	46		書出帳	(明治)廿九年二月	1896	村本利七	表紙に「当村」とあり。
C	47		書出帳	(明治)廿九年二月	1896	村本利七	表紙に「割田筋」とあり。
C	48		書出帳	(明治)廿九年二月	1896	村本利七	表紙に「黒田筋」とあり。
C	49		書出帳	(明治)廿九年申盆七月吉日	1896	葉栗郡字曾根 村本利七	裏表紙に「光明寺順得案 曾根呉服商」とあり。
C	50		書出帳	(明治)廿九年申盆七月吉日	1896	葉栗郡字曾根 村本利七	表紙に「玉ノ井筋」とあり。裏表紙に「玉ノ井廻り 呉服商」とあり。
C	51		書出帳	(明治)廿九年八月	1896		表紙に「当」とあり。
C	52		書出シ帳	(明治)廿九年旧七月	1896		表紙に「大の筋」とあり。
C	53		書出帳	(明治)廿九年八月	1896	村本利七	表紙に「黒田筋」とあり。
C	54		書出帳	(明治)廿九年旧十二月分	1896	村本利七	表紙に「玉ノ井」とあり。
C	55		書出帳	(明治)廿九年旧十二月分	1896		表紙に「当村分」とあり。
C	56		書出帳	(明治)廿九年旧十二月分	1896	村本	表紙に「大の筋」とあり。
C	57		書出帳	(明治)廿九年旧十二月分	1896	村本利七	表紙に「北方筋八幡分」とあり。「改」の豆印。
C	58		書出シ帳	(明治)廿九年旧十二月分	1896		表紙に「光明寺筋」とあり。「改」の豆印。
C	59		書出帳	明治三十年八月	1897	村本利七	表紙に「当村」とあり。
C	60		書出帳	明治三十一年一月	1898	村本利七	表紙に「」の文字。裏表紙に「村本利七」。
C	61		書出帳	明治三十一年一月	1898	村本利七	表紙に「明治三十一年 一月」の文字。裏表紙に「村本利七」。
C	62		書出帳	明治三十一年一月	1898	村本利七	表紙に「明治三十一年 一月」の文字。裏表紙に「村本利七」。
C	63		書出帳	明治三十一年一月	1898		青い線の罫紙を使用。表紙に「当村分」とあり。
C	64		書出帳	明治三十一年一月	1898	字曾根 村本利七	表紙に「大の筋」とあり。
C	65		書出帳	明治三十一年一月	1898	村本	表紙に「光明寺筋」とあり。
C	66		書出帳	明治三十一年戌八月	1898		表紙に「当村分」とあり。
C	67		書出帳	明治三十一年旧七月分	1898	葉栗郡字曾根 村本利七	裏表紙に「北方廻り 曾根呉服商」とあり。
C	68		書出シ帳	明治三十一年八月廿九日	1898	村本店	表紙に「大の筋」とあり。

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
C	69		書出帳	明治三十一年八月廿九日	1898	葉栗郡字曾根 村本利七	表紙に「玉ノ井 旧七月分」、裏表紙に「小牧 玉ノ井 割田廻り 曾根呉服商」とあり。
C	70		書出帳	明治三十一年旧七月分	1898	葉栗郡字曾根 村本利七	裏表紙に「田所 光明寺 更屋敷廻り 曾根呉服商」とあり。
C	71		書出帳	明治三十二年二月分	1899	村本利七	表紙に「当村分」とあり。
C	72		書出帳	明治三十三年一月三十日	1900		表紙に「当村分」とあり。
D	1		書抜	明治七年戊七月吉日	1874	曾根 綿新	表紙のみ。
D	2		書抜帳	明治九年子十二月	1876	綿新	
D	3		書抜帳	明治九年子十二月	1876	綿新	「改」の印鑑。
D	4		書抜帳	明治十年	1877	綿屋新三郎	「改」の印鑑。
D	5		書抜帳	明治十年	1877	綿屋新三郎	
D	6		書抜帳	明治十年丑七月	1877	綿屋新三郎	「改」の印鑑。
D	7		書抜帳	寅旧五月	1878	綿屋新三郎	「改」の印鑑。
D	8		書抜	寅明治十一年七月	1878	綿屋新三郎	
D	9		書抜帳	明治十一年寅七月	1878	綿屋新三郎	表紙に「第十貳號」、裏表紙に「口銘」、「改口シ」とあり。
D	10		書抜記	明治十一年寅十二月	1878	綿屋新三郎	本紙数頁分に「請取」の押印鑑。
D	11		書抜長	明治十一年寅十二月	1878	綿屋新三郎	表紙に「黒田筋」「第十貳號」とあり。
D	12		書抜記	明治十一年寅十二月	1878	綿屋新三郎	表紙に「光明寺筋」「第十二号」とあり。本紙数頁分に「請取」の押印鑑。
D	13	1	書抜記	明治十一年寅十二月	1878	綿屋新三郎	D-13-1~4は一綴。表紙に「東北方筋」とあり。
D	13	2	書抜記	明治十一年寅十二月	1878	綿屋新三郎	表紙に「西北方筋」とあり。
D	13	3	書抜記	明治十一年寅十二月	1878	綿屋新三郎	
D	13	4	書抜記	明治十一年寅十二月	1878	綿屋新三郎	表紙に「南黒田筋」とあり。
D	14		書抜帳	明治十二年卯七月	1879	綿屋新三郎	表紙に「光明寺筋」とあり。本文中、訂正のためか線で消してある上に紙を貼って付記されている箇所が二つ。
D	15		書抜帳	明治十二年卯七月	1879	綿屋新三郎	表紙に「南黒田筋」とあり。
D	16		書抜帳	明治十二年卯七月	1879	綿屋新三郎	表紙に「北黒田筋」とあり。
D	17		書抜記	明治十二年七月	1879	綿屋新三郎	
D	18		書抜記	明治十二年卯十二月	1879	綿屋新三郎	表題は「東筋」とあり。
D	19		書抜記	明治十二年卯十二月	1879	綿屋新三郎	表紙に「北黒田筋」とあり。
D	20		書抜記	明治十二年卯十二月	1879	綿屋新三郎	表紙に「西筋」とあり。
D	21		書抜記	明治十二年卯十二月	1879	綿屋新三郎	表紙に「南黒田筋」とあり。
D	22		書抜記	明治十二年卯十二月	1879		表紙に「村方」とあり。
D	23		書抜記	明治十二年卯十二月	1879	綿屋新三郎	表紙に「村方」とあり。
D	24	1	書抜記	明治十二年卯十二月	1879	綿屋新三郎	D-24-1~8は一綴。
D	24	2	書抜帳	明治十六年未七月	1883	綿屋新三郎	
D	24	3	書抜長	明治十五年午極月	1882	綿屋新三郎	
D	24	4	書抜長	明治十五年午七月	1882	綿屋新三郎	
D	24	5	書抜帳	明治十四年己極月	1881	綿屋新三郎	
D	24	6	書抜帳	明治十四年己七月	1881	綿屋新三郎	
D	24	7	書抜記	明治十三年辰十二月	1880	綿屋新三郎	
D	24	8	書抜帳	明治十三年辰十二月	1880	綿屋新三郎	
D	25		書抜帳	明治十三年辰七月	1880	綿新	表紙に「当村」とあり。
D	26	1	書抜帳	明治十三年辰七月	1880	綿新	D-26-1~7は一綴。表紙に「南黒田筋」とあり。本文中に「原豊」の印鑑。
D	26	2	書抜帳	明治十三年辰七月	1880	綿新	表紙に「北黒田筋」とあり。

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
D	26	3	書抜帳	明治十三年辰七月	1880	綿新	表紙に「玉ノ井筋」とあり。
D	26	4	書抜帳	明治十三年辰七月	1880	綿新	表紙に「光明寺筋」とあり。本文中に「原豊」の印鑑。
D	26	5	書抜帳	明治十三年辰七月	1880	綿新	表紙に「いづみや筋」とあり。本文中に「原豊」の印鑑。
D	26	6	書抜帳	明治十三年七月	1880	綿新	表紙に「大野筋」とあり。本文中に「原豊」の印鑑。
D	26	7	書抜帳	明治十三年辰七月	1880	綿新	表紙に「松山筋」とあり。本文中に「原豊」の印鑑。
D	27		書抜記	明治十三年辰十二月	1880		表紙に「いづみや筋」とあり。本文中に「原豊」の印鑑。
D	28		書抜記	明治十三年辰十二月	1880		表紙に「大日筋」とあり。本文中に「原豊」の印鑑。
D	29		書抜記	明治十三年辰十二月	1880		表紙に「光明寺筋」とあり。本文中に「原豊」の印鑑。
D	30		書抜帳	明治十三年辰十二月	1880		表紙に「玉ノ井筋」とあり。
D	31		書抜帳	明治十四年午七月	1881		表紙に「光明寺筋」とあり。
D	32	1	書抜帳	明治十四年己七月	1881	尾張 曾根綿屋	D-32-1~6は一綴。表紙に「南黒田筋」とあり。
D	32	2	書抜帳	明治十四年己七月	1881	尾張 曾根綿屋	表紙に「北黒田筋」とあり。
D	32	3	書抜帳	明治十四年己七月	1881	尾張 曾根綿屋	表紙に「光明寺筋」とあり。
D	32	4	書抜帳	明治十四年己七月	1881	尾張 曾根綿屋	表紙に「大日筋」とあり。
D	32	5	書抜帳	明治十四年己七月	1881	尾張 曾根綿屋	表紙に「いづみや筋」とあり。
D	32	6	書抜帳	明治十四年己七月	1881	尾張 曾根綿屋	表紙に「玉ノ井筋」とあり。
D	33	1	書抜帳	明治十四年己極月	1881		D-33-1~6は一綴。表紙に「光明寺筋」とあり。本文に「村本」の印鑑あり。
D	33	2	書抜帳	明治十四年己極月	1881		表紙に「大日筋」とあり。本文に「村本」の印鑑あり。
D	33	3	書抜長	明治十四年己極月	1881		表紙に「いづみや筋」とあり。本文に「村本」の印鑑あり。
D	33	4	書抜帳	明治十四年己極月	1881		表紙に「玉ノ井筋」とあり。本文に「村本」の印鑑あり。
D	33	5	書抜帳	明治十四年己極月	1881		表紙に「南黒田筋」とあり。
D	33	6	書抜長	明治十四年己極月	1881		表紙に「北黒田筋」とあり。
D	34		書抜帳	明治十五年午七月	1882		表紙に「黒田筋」とあり。
D	35		書抜帳	明治十五年午極月	1882		表紙に「大日筋」とあり。
D	36		書抜帳	明治十五年午極月	1882		表紙に「南黒田筋」とあり。
D	37		書抜帳	明治十五年午極月	1882		表紙に「北黒田筋」とあり。
D	38		書抜帳	明治十六年未七月	1883		表紙に「黒田筋」とあり。
D	39		書抜帳	明治十六年未十二月	1883		
D	40		書抜長	明治十六年未十二月	1883		表紙に「黒田筋」とあり。
D	41		書抜長	明治十七年申七月	1884		表紙に「黒田筋」とあり。
D	42		書抜長	明治十七年極月	1884		表紙に「黒田筋」とあり。
D	43		書抜長	明治十七年極月	1884		表紙に「玉ノ井筋 大日筋」とあり。
D	44		書抜長	明治十七年極月	1884		表紙に「光明寺筋 玉ノ井筋」とあり。
D	45		書抜長	明治十八年酉七月	1885		表紙に「南筋」とあり。
D	46		書抜帳	明治十八年極七月	1885		表紙に「南筋 北筋」とあり。
D	47		書抜長	明治十九年戌七月	1886		表紙に「南筋」とあり。
D	48		書抜長	明治廿年亥七月	1887		表紙に「南筋」とあり。
D	49		書抜長	明治廿年亥極月	1887		裏表紙に「南筋」とあり。
D	50		書抜長	(明治)廿一年度十二月分	1888		表紙に「南筋」とあり。
D	51		書抜帳	明治廿三年寅八月	1890	ソ子 村本	表紙に「南筋」とあり。本文は青線の罫紙を使用。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	52		書抜帳	明治廿三年寅二月	1890		表紙に「当」とあり。
D	53		書抜帳	明治廿三年寅二月	1890		表紙に「北筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	54		書抜帳	明治廿三年寅二月	1890		表紙に「南筋」とあり。
D	55		書抜帳	明治廿三年寅八月	1890	ソ子 村本	表紙に「当村」とあり。本文は青線の罫紙を使用。

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
D	56		書抜帳	明治廿三年寅八月	1890	ソ子 村本	表紙に「北筋」とあり。
D	57		書抜帳	明治廿四年十二月	1891		表紙に「南筋」とあり。
D	58		書抜帳	明治廿五年一月	1892		表紙に「当村」とあり。
D	59		書抜帳	明治廿五年一月	1892		表紙に「玉ノ井筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	60		書抜帳	明治廿五年一月	1892		表紙に「北筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	61		書抜帳	明治廿五年辰七月分	1892		表紙に「当村」、「□□□分ハ廿四年の大福長の下ニあり」とあり。
D	62		書抜帳	明治廿五年七月分	1892	村本	表紙に「北筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	63		書抜記	明治廿五年辰七月分	1892		表紙に「玉ノ井筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	64		書抜記	明治廿五年辰七月分	1892	村本	表紙に「南筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	65		書抜帳	(明治)廿六年旧十二月分	1893	村本店	表紙に「黒田筋」とあり。
D	66		書抜帳	(明治)廿六年旧十二月分	1893	村本店	表紙に「玉ノ井筋」とあり。
D	67		書抜帳	明治廿七年午八月	1894	ソ子 村本利七	表紙に「玉ノ井筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	68		書抜帳	明治廿七年八月	1894	曾根 村本利七	表紙に「大の筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	69		書抜帳	(明治)廿九年申七月吉日	1896	葉栗郡字曾根 村本利七	表紙に「北方中」とあり。裏表紙に「北方通 曾根呉服商」とあり。
D	70		書抜帳	(明治)廿九年八月分	1896		表紙に「黒田八幡筋」とあり。本文中に「村本賢治」の印鑑あり。
D	71		書抜記	(明治)廿九年十二月分	1896	村本利七	表紙に「大の筋」とあり。
D	72		書抜帳	明治三十年八月	1897	黒田町 村本利七	表紙に「大の筋」とあり。本文中に「村本」の印鑑あり。
D	73		書抜帳	明治三十年八月	1897	黒田町 村本利七	表紙に「玉ノ井筋」とあり。本文中に「村本」とあり。
D	74		書抜帳	明治三十二年二月分	1899	黒田町 村本利七	表紙に「北方筋」とあり。
D	75		書抜帳	明治三十二年二月分	1899	黒田町 村本利七	表紙に「大の筋」とあり。
D	76		書抜帳	明治三十三年二月分	1899	村本利七	表紙に「玉ノ井筋」とあり。
D	77		書抜帳	明治三十二年八月吉日盆期	1899	曾根呉服商村本利七	表紙に「北方廻り」とあり。
D	78		書抜帳	明治三十二年八月吉日盆期	1899	曾根呉服商村本利七	表紙に「大の 河田 島廻り」とあり。
D	79		書抜帳	明治三十二年八月吉日盆	1899		表紙に「当村」とあり。
D	80		書抜覚帳	盆期明治三十二年八月吉日	1899	曾根呉服商村本利七	表紙に「小牧 玉ノ井 割田廻り」とあり。裏表紙に「曾根呉服商村本利七」の文字。
D	81		書抜帳	(明治)三拾三年一月吉日	1900		表紙に「北方筋」とあり。
D	82		書抜帳	明治参三年一月吉日	1900		表紙に「大の筋」とあり。
D	83		書抜帳	明治三十三年一月吉日	1900	村本利七	表紙に「玉ノ井筋」とあり。本文に「村本賢治」の印鑑あり。
E	1		雑記	(明治30年頃)	1897		「三十年旧二月七日」とあり。
E	2		雑記	(明治32年頃)	1899		表紙裏にアラビア数字1~10まで。裏表紙から1枚目に「明治三十二年十二月差引分」、5枚目に「三十三年旧七月」の文字もあり。
E	3		雑記	(明治36年頃)	1903	葉栗郡字曾根 村本利七	本文4枚目に「三十六年」の文字。本文中に様々な人名と住所の入った印鑑あり。「入金済」「勘定済」などの印鑑もあり。
E	4		雑記	明治三十一年旧盆後第参号	1898	賢治	裏表紙に「北方廻り」とあり。本文一枚目に「葉栗郡字曾根 村本利七」の印鑑など
E	5		雑記	明治三十一年旧盆後第□号	1898	賢治	裏表紙に「地廻り□へ」、右側面に「賢治」の文字。本文一枚目に「葉栗郡字曾根 村本利七」の印鑑などあり。
E	6		雑記	(明治31年か)	1898	建治	表紙に「次帳」、表紙の裏に「三十一年一月額地届高」とあり。
E	7		雑記	不明	9999		
E	8		雑記	不明	9999		巻末の数か所に1.5×1cmほどの何か記入されている紙片が貼ってある。

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
E	9		雑記	不明	9999		本文中に「三十年八月□□」の文字。表紙の裏および裏表紙の裏に二種類の同じまじないのような言葉が記載されている。
E	10		雑記	不明	9999		本文中に「村本」などの印鑑あり。
E	11		日記帳	丙子明治九年一月吉日	1876	綿屋新三郎	
E	12		算法記	不明	9999	利七	裏表紙に「利七」「持ぬし」の文字と竹の枝の絵あり。本文中に三角形、台形などたくさん図形が書かれている。
E	13		[雑記]	不明	9999		山梨県甲斐絹業組合の印紙が貼られている。「上毛桐生」と書いたイラストの紙片が挟まれている。本文中に「村本」などの印鑑あり。
E	14		記	明治十年	1877		裏表紙に「金井様」とあり。
E	15		記	明治十年	1877		本文中に庭の絵のようなものが描かれている。「十七年四月」「十八年三月」の文字もあり。
E	16		記 第七拾貳号	明治十一寅年	1878	綿屋新三郎	
E	17		記 第三十七号	明治十二年	1879	綿屋新三郎	「安田源太馬様」とあり。
E	18		記 当所 第貳拾壹号	明治十二年卯一月	1879		本文中に「尾張 曾根綿屋」と「村本利七」の印鑑あり。
E	19		記	(明治13~16年)	1880 1883		差引金高記。一頁目に「明治十三年より拾六年迄」の文字。
E	20		記 第三十七号	明治十三年辰一月 巳一月	1880 1881		
E	21		記 買物 第三十七号	明治十三年辰一月 明治十四年巳一月	1880 1881		
E	22		記	明治十四年	1881		二ノ宮秀八様
E	23		記 第六十八号	明治十四年一月	1881	尾張曾根綿屋 村本	
E	24		記 金銀	明治十五年一月	1882	尾張曾根綿屋	本文中に「明治十六年一月」の文字。
E	25		記 仕立控	明治十五年明治十六年	1882 1883	尾張曾根綿屋	本文中に「明治十七年一月」「明治十七年」の文字。
E	26		記 寿室他 第九十七号	明治十五年午七月	1882	尾張曾根綿屋	
E	27		記 第八十六号	明治十五年午益後	1882	尾張曾根綿屋	表紙に「小使 三ツ割 壹分」とあり。
E	28		記 足	明治十六年十二月	1883		
E	29		記	明治十六年末三月	1883		裏表紙に「長瀬治助 代 車銭」とあり。
E	30		記 新家口	明治十六年末正月	1883		
E	31		記 六目木買返り	明治十六年末三月	1883		
E	32		記	明治十七申	1884		一部破損。
E	33		記 当所	明治十七年申一月吉日	1884	尾張曾根綿屋	
E	34		記 金(カ)	明治十七年申一月吉日	1884	尾張曾根綿屋	家計メモか。
E	35		記 往文	明治十七年申一月吉日	1884	尾張曾根綿屋	表紙に「甲」とあり。
E	36		記 第九十四号	明治十七年己一月	1884	尾張曾根綿屋 綿屋新三郎	
E	37		記 金銀	明治十六年一月	1883	尾張曾根綿屋 村本	
E	38		記 当方控	明治十八年	1885		
E	39		記 足	明治十八年	1885		本文中に「十二年」「十六年~十九年」など様々な年代の文字が見える。
E	40		記	明治十八年	1885	村本利七	
E	41		記 小使	明治十九年	1886	尾張曾根綿屋	

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
E	42		記 第十七号	(不明)	9999	尾張曾根綿屋	二ノ宮勇八地所分。
E	43		記	(不明)	9999		田畑一覽
E	44		買物記	明治二十五年	1892	村本店	本文に「村本」のほか、「岐阜長良角仙」「美濃長良川口文次郎」等、他の商店らしきものの印鑑あり。
E	45		記 口改	明治十四年	1881		
F	1		履物御通	(不明)	9999		表紙に「月すゑの支度」とあり。
F	2		金銀出入之通	明治五申正月吉日	1872		
F	3		太物御通	明治七年戌一月吉日	1874		表紙に「甲」、裏表紙に「綿屋新三郎様」とあり。
F	4		金銀通	明治九年子二月吉日	1876		表紙に「丙」とあり。
F	5		染物御通	明治九年子一月吉日	1876		裏表紙に「綿屋新三郎様」とあり。
F	6		洋物通	明治廿一年十一月	1888 1889	吉村富三郎	裏表紙に「村本利七様」とあり。一頁目に印紙と印鑑。
F	7		呉服御通	(明治)廿三年廿四年	1890 1891	村本利七	表紙に「当村」とあり。
F	8		洋反物太物通	明治三十一年十一月十一日	1898	尾関合名会社	裏表紙に「村本利七様」の文字。一頁目に印紙と「愛知名古屋市本町四丁目尾関合名会社」の印鑑などあり。
F	9		足袋太物通	明治三十三年五月	1900	桜井清三郎	裏表紙に「村本利七様」の文字。一頁目に印紙と「櫻井」の印鑑などあり。印紙と本文は青い線の罫紙を使用。
F	10		太物通	明治三十四年九月四日	1901	八木平兵衛	裏表紙に「村本利七様」の文字。一頁目に印紙と印鑑。
F	11		足袋太物通	明治卅四年十一月	1901	桜井清三郎	裏表紙に「村本利七様」の文字。一頁目に印紙と印鑑あり。本文は青い線の罫紙を使用。
F	12		洋反物御通	明治三十四年十二月十五日	1901	尾関合名会社	裏表紙に「村本利七様」の文字。一頁目に印紙と印鑑などあり。
F	13		呉服通	明治三十五年六月十四日	1902	小泉望助	一頁目に印紙と印鑑などあり。
F	14		洋反通	明治三十五一月十一日	1902	後藤増平	裏表紙に「村本利七様」の文字。一頁目に印紙と印鑑などあり。
F	15		太物通	明治三十六年十月	1903	八木屋忠七	裏表紙に「村本利七様」の文字。一頁目に印紙と印鑑などあり。
F	16		足袋太物通	不明	9999	桜井清三郎	表紙のみ。裏表紙に「村本利七様」とあり。
F	17	1	御通	明治二十年	1887	村本利七	F-17-1~3は一綴。裏表紙に「川合彦四郎様」とあり。一頁目に「通」の期限を記入する定型文の判。
		2	御通	明治二十年	1887	村本利七	裏表紙に「野村新九郎様」とあり。一頁目に「通」の期限を記入する定型文の判。
		3	御通	明治二十年	1887	村本利七	一頁目に「通」の期限を記入する定型文の判。
F	18		[通帳]	明治廿七年十二月	1894	吉田善平	一頁目に印紙と印鑑などあり。
F	19		御通	明治廿九年九月一日	1896	城情次郎	裏表紙に「村本利七殿」とあり。一頁目に印紙と印鑑などあり。
F	20		御通	明治三十三年亥九月吉日	1899	尾州葉栗郡黒田町 曾根呉服商曾根村本利七	裏表紙に「馬場房太郎様」とあり。一頁目に印紙と印鑑などあり。
F	21	1	御通	明治三十三年亥月吉日	1899	曾根 村本利七	表紙のみ。
		2		明治三十三年亥月吉日	1899	曾根 村本利七	表紙のみ。
G	1		当用日記	大正14年	1925		
G	2		当用日記	大正15年	1926		
G	3		当用日記	大正16年	1927		
G	4		当用日記	昭和3年	1928		
G	5		当用日記	昭和4年	1929		
G	6		自由日記	昭和5年	1930		
G	7		当用日記	昭和6年	1931		

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
G	8		当用日記	昭和7年	1932		
G	9		当用日記	昭和8年	1933		
G	10		当用日記	昭和9年	1934		
G	11		当用日記	昭和10年	1935		
G	12		当用日記	昭和11年	1936		
G	13		当用日記	昭和12年	1937		
G	14		当用日記	昭和13年	1938		
G	15		当用日記	昭和14年	1939		
G	16		DIARY	昭和15年	1940		
G	17		当用日記	昭和16年	1941		
G	18		当用日記	昭和17年	1942		
G	19		当用日記	昭和17年	1942		
G	20		当用日記	昭和17年	1942		
G	21		当用日記	昭和18年	1943		
G	22		当用日記	昭和18年	1943		
G	23		当用日記	昭和19年	1944		
H	1		地券	明治14年	1881		14枚。持主:村本利七
H	2		地券	明治15年	1882		8枚。持主:村本利七
H	3		地券	明治16年	1883		12枚。持主:村本利七
H	4		地券	明治17年	1884		26枚。持主:村本利七
H	5		地券	明治19年	1886		19枚。持主:村本利七
H	6		地券	明治20年	1887		6枚。持主:村本利七
H	7		地券	明治14年	1881		19枚。持主:村本新三郎→村本利七
H	8		地券	明治11年	1878		1枚。持主:村本久助→松原孫右工門→村本利七
H	9		地券	明治11年	1878		1枚。持主:村本卯右衛門→榊林重助→村本利七
H	10		地券	明治11年	1878		1枚。持主:榊林重助→松原孫右工門→村本利七
H	11		地券	明治11年	1878		3枚。持主:村本宇兵衛→松原孫右工門→村本利七
H	12		地券	明治11年	1878		1枚。持主:榊林甚八→松原孫右工門→村本利七
H	13		地券	明治11年	1878		1枚。持主:日比野仙十郎→松原孫右工門→村本利七
H	14		地券	明治12年	1879		1枚。持主:松原孫右工門→村本利七
H	15		地券	明治14年	1881		1枚。持主:日比野き志→村本利七
H	16		地券	明治14年	1881		1枚。持主:二ノ宮重兵衛→村本利七
H	17		地券	明治14年	1881		1枚。持主:日比野増兵衛→村本利七
H	18		地券	明治16年	1883		1枚。持主:葛谷甚七→村本利七
H	19		地券	明治17年	1884		1枚。持主:二宮新右工門→村本利七
H	20		地券	明治17年	1884		1枚。持主:山田此七→村本利七
I	1		金銭出入帳	明治二十九年口一月	1896	村本利七	本文中、「愛知縣葉栗郡黒田町 五藤治郎八の氏名と村本利七殿」の文字と印鑑を押した薄紙が挟んである。
I	2		[品記]	(明治29年か)	1896		本文中、「廿九年」という文字が5か所あり。冊子の1/3ほどの部分の位置にピンク色の紙でブックマークしてある。
I	3		収支覚帳	大正十一年二月 旧大正十一年十二月年末	1922	村本賢治	
I	4		確証	庚辰明治十三年一月	1880	村本利七	明治十二～三十四年までの記録。本文中、薄紙の覚書のようなものが挟まってい

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
I	5		確証帳	明治十五年一月	1882	村本利七	本文中、薄紙の覚書のようなもの(二宮永助から村本利七殿あて)が挟まっている。明治十四年~三十二年までの記録。
I	6		掬米取立帳	甲申明治十七年一月吉日	1884	村本利七	「〇年度分」という書き方で、明治十九年~三十七年までの記録。
I	7		勘定帳	大正十一年二月七日 旧十二月三十日	1922	愛知県葉栗郡北方村大字曾根 村本呉服店	表紙に「年末期 当帳全部大正十年度当座帳へ移し済」とあり。綴じしろがミシンで縫ってある。
I	8		万覚	明治三十三年四月	1900	村本たい	本文は赤い線の罫紙を使用。表紙部分は緋色の和紙でくまれている。
I	9		月日覚	明治廿七年二月吉日	1894	村本賢治	裏表紙に「村本賢治持盆仕様」とあり。本文は青い線の罫紙を使用。表紙部分はやまぶき色の和紙でくまれている。
I	10		判取帳	明治二十七年	1894	村本利七	様々な筆跡、氏名、印鑑。本文中、後方に明治二十五から二十九年で9件の支払いに対し、「右正二請取申候也」との記録。
I	11		確証帳	(明治23~42年)	1890 1909	村本利七	
I	12		仕立帳	(明治23年)	1890	村本利七	
I	13		地廻帳	明治廿八年二月吉日	1895	曾根呉服屋	
I	14		東濃品合帳	明治二十八年十一月	1895	林善平商店	裏表紙に「村本理(ママ)七殿」、一頁目に印紙と印鑑などあり。
I	15		[引付記]	(明治)三十四年	1901	村本利七	表紙の裏と、本文中に「品戻」の印鑑多数あり。明治三十六、七年の記録もあり。
I	16		[金銭・品名書付]	不明	9999		6点
I	17		[金銭・品名書付]	不明	9999		17点
I	18		[田畑面積書付]	不明	9999		帳くずれ
I	19		[金銭受取帳]	不明	9999		
I	20		[呉服勘定帳]	(大正13~昭和2年)	1924 1927		
I	21		[金銭品名書付]	不明	9999		3枚
I	22		[金銭品名書付]	不明	9999		3枚
I	23		[呉服勘定帳]	不明	9999		表紙欠
I	24		[金銭受取帳]	[明治31-32]	1898 1899		赤い糸で綴じられている。途中、「三十三年」「明治卅一年九月十三日」という文字が出てくる。
I	25		口入帳	明治三十年	1897	村本利七	表紙裏に紙治商店の福神のイラスト付きのシールが貼られている。本文中2か所に印紙と印鑑(糸重)。「尾関合名会社」の印鑑多数あり。「三十四年一月廿一日 永瀬吉太郎 印鑑 村本利七殿」などと書かれた薄紙が挟んである。
I	26		[金銭受取帳]	[明治30年代]	1897		本文中「相済」「品戻」という印鑑が複数見られる。取引先と推測される様々な印鑑が押されている。
I	27		[呉服勘定帳]	明治31年(カ)	1898		後から張り付けられたような頁が最初に数枚分あり。
I	28		[金銭勘定帳]	明治廿年一月吉日	1887		明治27年の営業に関する一宮町長横井甚四郎の諭告が添付されている。
I	29		[帳面、未使用]	不明			表紙全体が薄い布でカバーされている。本文は青色の線の罫紙が使用されている。
I	30		[太物呉服勘定帳]	不明		村本利七	表紙破損。途中に証書のような赤い紙が挟んである。E8と同じ紙片は多数貼られている。
I	31		大宝恵	不明	9999	村本利七	随所に印鑑あり。
I	32		大宝恵	明治廿九年申口月吉日	1896	村本利七	随所に、「代済」などの印鑑あり。
I	33		大宝恵	明治廿八年未十二月吉日	1895	村本利七	
I	34		大宝恵	慶応三年	1867		裏表紙に「信口」とあり。本文中、明治10年から16年にかけての年月の記録が記載されている。証書が多数のようなものが何枚か袋状の部分に挟んである。「請取」、「村本」、「村本利七」の印鑑多数。

村本家文書目録

箱番	No.	枝	表題	年代	西暦	作成者	備考
I	35		日家栄	大正九年一月吉日	1920	村本賢治	本文中、取引先と品物一覧が書かれており、メリヤス、ステテコ、タオル、シャツ、ハラマキ、サルマタ、クツ下、ゴムタビ、半ズボン、半袖シャツ、チョッキ、マントなど呉服以外のものが多く見られる。末尾の方に、銀行口座として「G06161」という番号が書かれている。
I	36		日家栄	大正八年十月吉日起	1919	村本賢治	一頁目から「東濃行」として品名と数量が列挙されている。I-35と同じような品目の記載あり。
I	37		買物帳	明治三十二年亥七月吉日	1899	村本利七	記載なし。
I	38		買物帳	明治廿八年未一月吉日	1895	村本利七	取引先のものらしき様々な名前の印鑑多数あり。
I	39		[メモ帳]	不明	9999		表紙破レ
I	40		[メモ帳]	不明	9999		
I	41		[メモ帳]	不明	9999		青い線の罫紙を使用。日付順に金額が記載されている。廿六年、廿七年などの文字あり。
I	42		さいの川原地蔵和讃他	不明	9999		2点、印刷物
I	43		[品代書上帳]	明治30-31(カ)	1897 1898		
I	44		[金銭受取帳]	明治29(カ)	1896		
I	45		[メモ帳]	明治期(カ)	9999		青い線の罫紙を使用。
I	46		[メモ帳]	不明	9999		
I	47		古銭		9999		13点